

憲法9条アピール平和行動
「バルーン・リリース (風船飛ばし)」

平和の願いのせ、 大空に1300個の風船

色とりどりの風船が大空高く飛んでいく



平和の願い込め「飛んでいけ！」

厚生協会だより

2012年9月21日
第 315 号

発行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長澤清光



3つの願いが書かれた1300個の風船

9月6日(木)の朝、坂総合病院3階病棟テラスに、入院患者さん、友の会会員さん、多賀城9条の会の方々、事業協、つばさ薬局、そして職員と、全体で80名以上が参加し、9時9分9秒に「憲法9条アピール平和行動」として、1300個の風船を飛ばす「バルーン・リリース」を行いました。

3つの願いを込めた風船

色とりどりの風船には3つの願い「守ろう9条！生かそう25条！」「原発ゼロ！子ども守れ！」「住民本位の震災復興を！」が書かれています。早朝7時から介護事業者

「フィット」さん、つばさ薬局、事業協、放射線室スタッフの7名が、ヘリウムガスボンベで1300個の風船を膨らまし準備してくれました。
9時前にセレモニー集会を開催。司会進行は事業協事務局長の草間さんが務め、各団体(病院、つばさ薬局、友の会)から次々と平和への思いや決意など連帯のあいさつがありました。

全員でカウントダウン

10秒前からカウントダウン。「...5. 4. 3. 2. 1. それ！」と、平和の願いを込め一斉に風船を飛ばしました。

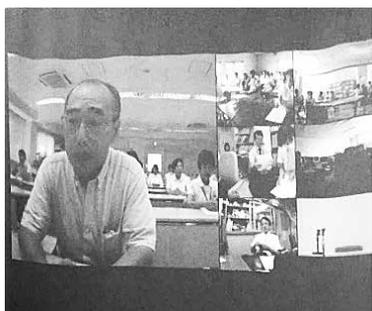
風船は青空に溶け込むように、みんなの平和の願いをのせ大空高く飛んでいきました。それはそれは、美しく感動的な光景でした。

今年は宮城民医連関係では、下馬みどり保育園が同時刻に100個飛ばし、古川で9月9日の健康まつりで600個、松島で1000個、全体で2100個の「バルーン・リリース」となりました。

「パワーハラスメント」研修会開催 パワーハラスメント根絶に向けて

宮城厚生協会内部統制室室長 佐藤 直志

8月30日(木)の午後、坂総合病院2階セミナールームで、職責者・安全衛生委員を対象に、理事会主催で「パワーハラスメント」研修会が開催されました。テレビ会議中継システムも活用し、7会場で182名が参加しました。はじめに、長町会場から水戸部秀利理事長があいさつしました。今回の研修会が法人内事業所で発生した事例を踏まえての企画であり、被害を



長町会場から水戸部理事長があいさつ

受けた職員に改めて謝罪するとともに、防止管理の不十分さについて理事会としての反省を述べました。そして、この研修会で「パワーハラスメント」について学び、防止策を具体化していく第一歩にしたいと決意を述べました。

講演 テーマ：「職場における『パワーハラスメント』を考える」
講師：増田 祥弁護士
(増田法律事務所)

人権を基礎にした人間関係築くことが重要

増田祥弁護士に標記テーマで講演していただきました。まず、パワーハラスメントをめぐる社会状況の変化につ

いて述べられ、増加はILO報告などからも世界的な傾向であること、背景として経済の自由主義的構造改革による競争の激化が職場にも及び、医療機関など保健衛生分野も例外ではなく、厚生労働省もこうした変化を無視できず、パワーハラスメント防止のための「円卓会議」を設置し「報告書」取りまとめと今年3月の「提言」公表など報告されました。



講師の増田祥弁護士

パワーハラスメントの概念

「円卓会議」の「報告書」によるパワーハラスメントの概念は「同じ職場で働く者に対し、職務上の地位や人間関係等の職場内の優位性を背景に、業務の適正範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える、または職場環境を悪化させる行為。先輩・後輩・同僚間、さらには部下から上司に対して様々な優位性を背景に行われるものも含まれる」とあり、行為類型として暴行、傷害など身体的な攻撃や脅迫、名誉棄損、侮辱、暴言など精神的攻撃があり、時には生命をも奪う行為になることの認識の必要性が強調されました。

こうした行為は法的責任を伴い、当該行為者の刑事責任や懲戒処分などの雇用関係上の処分、また民事責任が問われ、雇用者も民法上の不法行為、契約責任が問われ民事責任の裁判例も含めて話されました。最後に、「自分の職場における『パワーハラスメント』を考える」として、視野を広げ自分の職場を見つめ直すこ



坂病院会場



泉病院会場

と、パワーハラスメントの解決手段、救済手段は集团的・組織的に取り組む必要があること、自分の職務上の立場が「パワー」「権力」になっているかどうか、自分自身の立場を見つめ直す必要があると述べられました。

そして、パワーハラスメントの解決は難しい課題の一つだが、人権を基礎に人間関係構築の重要性を認識し、課題に正面から向き合うことを期待したいと結びました。

●参加者の感想文から

様々な意識、苦悩、要望、決意

「スタッフへ指導する時は発言に注意したい」「相互のコミュニケーションが大切であり信頼関係を重視したい」「パワーハラをどう捉えるか考えるきっかけになった」「職責自身がパワーハラ行為をしていないか、聞き取りや目配りをしてほしい」「業務遂行にあたって信頼を基礎にした職場運営をしていきたい」など感想が寄せられました。

一方、職場教育や個別指導

の在り方について苦悩の記述もあり、指導とパワーハラの間、コミュニケーション力、職場や集団としての指導と教育の困難さが伺えました。

職場の中で今後取り組みたい事は、相手の感じ方の違いへの理解力、自身の資質や能力を高める自己啓発、職員の様々な悩みや相談を受け入れる職場環境改善などが出されています。理事会への要望として、継続した研修会の企画や職責者へのサポート整備が出されました。

最後に長澤清光専務理事より、「信頼関係を重視し集団的に検証していくことが大事です。今日はその入り口としての第1歩です。職場の課題を一緒に解決していきましよう。」と述べ、パワーハラスメント根絶に努力することを参加者全員で確認し終了しました。



建設資金借入金の金利変更等のお知らせ

公益財団への移行に伴い、厚生協会建設資金（協会債・基金）の取り扱いを見直します。

- I、協会債の金利を見直すとともに、1年債2年債を廃止し7年債を新設します。
現在の金利は2010年に改定したのですが、その後、市中金利が大幅に低下し金利差は大きなものとなっています。公益法人は特定の関係者（友の会員等）への利益供与は禁止されていますので、国債金利水準を参考にした利率に改めます。また、資金募集目的を明確にするため、器械備品の耐用年数に合わせた預け入れ期間とします。

見直し後の建設資金借入金（協会債）利率			
3年債	0.070%	5年債	0.161%
7年債	0.215%	(中途解約0.020%)	

- II、「建設基金」の新規受け入れは終了し、新たに「地域協同基金」を創設します。地域協同基金の特典はありません。申し込み限度額は1世帯500万円までとします。
建設基金は、法的取り扱いとしては協会債と同様に位置づけられ、人間ドック等の特典は利益供与と見なされる可能性があります。これまでの建設基金は、解約の申し出がない場合は3年後の2015年9月30日には地域協同基金と同様の取り扱いに移行します。周知徹底期間を鑑み3年間は「建設基金の特典」は有効とします。

- III、新たな基準での運用開始日は2012年10月1日新規受付からとします。

以上

「わたしの夏休み」

第2の故郷でリゾートダイビング

長町病院検査室 高城 健

こんにちは。長町病院検査室の高城です。長町に異動した年度に震災に遭い、あたふたしていましたが、最近やっと落ち着いたので、3年ぶりに夏休みリゾートダイビングに行ってきました。

場所は沖縄・慶良間諸島の座間味島。以前は毎年行っていましたが、今回は久々の里帰り(自称第2の故郷)となりました。

到着した日は良かったのですが、翌日はスゴイ雷雨で、とても海に出られる感じではありませんでした...(悲)。次の日はどんよりながらも雨は上がり、うつむき加減のリハビリダイビングでした。3日目からはピーカンで、本来のテンションとなりおおはしゃぎ...

◆お気に入りのポイント◆

早速、お気に入りのポイントを紹介します。まずは、写真を見てください。ここは「男岩(うがん)」というポイントで、名前の通り荒々しい場所に男らしい岩が鎮座



男岩(うがん)

しています。日によっては、潮の流れが激しく、岩につかまっても鯉のぼり状態になってしまうこともしばしば...。更に、ドリフトダイビングなので、浮上してからそこに船が迎えに来るといふ些が危険なポイントです。
何でそんなところに行くのか? :それはそこには「この世のものとは思えない景色」と「日ごろの体重をまったく感じさせない自由な空間」があるからです。チャンスがあったら、皆様も是非、非日常の体験をして見ては如何?

「わたしの夏休み」

娘のマーチング大会で夏休みは一変

坂総合クリニック検査室 今野 恵子

昨年、震災のため2週間ほど遅れて始まったわが家の末っ子娘ともなは高校生活で、わたしの夏休みは一変した。全く知らなかったのだが、東北でも有数のマーチングが有名な学校の吹奏楽部に(しかも吹奏楽未経験で)入部したのだ。

「日本マーチング・バトントワリング協会」主催のマーチング大会は、実に華やかで、カラーガードの演技は感嘆してしまうのだが、その衣装やフラッグは「親の会」のお母さんたちの手作りである。曲のイメージにあわせたデザイン画がマーチングの先生から渡され、それをもとに型紙から作っていくのだ。

◆熱い思いをのせ歓声が

わきあがる秋へ◆

夏休み、被服室を借り切って朝から夕方まで手弁当で「通学」して作るのだが、この道6、7年(兄弟で部員なんです)毎日というベテランの母親が何人もいる。

そんな母たちの暑い夏はやがて、子どもたちの汗と涙と母たちの熱い思いをのせて歓声がわきあがる秋へと移っていく。
完成したフラッグを振る姿を思い描きながら、夏を惜しむように木漏れ日を車窓にうけて、わたしの夏休みは終わりを告げる。



マーチング大会の様子



マリンバ担当のともなさん

「つまじいもの自慢」

『梅酢みそ』に、はまっています

泉病院友の会 蘇武 昌春

一人暮らし10年生です。本格的な料理の知識はないが、朝のラジオ体操仲間から教わる料理の知恵や、「いつでも元氣」の「食と健康」、新聞の「今晚のおかず」等を参考に、味つけはかなりいい加減ですが、何時でも、どんなものでも、美味しく食べています。

特に、10年ほど前から福岡県八尾地方で食べられているという『梅酢みそ』にはまり、毎日、野菜や納豆に、時にはソーメンや湯豆腐、冷奴、食パンにもつけたりかけたりして食べています。

私は青梅のシーズンになると、毎年4kgから6kgくらいは青梅で『梅酢みそ』を作り、ドレッシングの常備菜として1年中食べています。作り方は実に簡単です。

青梅1kgのヘタを取り、きれいに水洗い、水気をとり、広口瓶に入れます。その上白糖500g（甘いのが好きな方は1kg）を入れます。その上にすり味噌を1kg、できれば赤味噌を入れれば終わり

です。

発酵するので蓋をゆるく締めて冷暗所に置き、時々かき回し、2週間もすると『梅酢みそ』が出来上がります。

取り出した梅をおかずに食べています。『梅酢みそ』は蜂蜜の空き容器に入れて利用しています。

毎年ラッキョウを6kg漬けているので、暑い夏にはそのラッキョウ酢を『梅酢みそ』に入れ、水で薄めてソーメンのタレにも利用しています。暑い日にはサッパリして美味しいですよ。



第25回健康まつり（大崎健康福祉友の会古川支部）

夢と希望、元気をもらった

大崎健康福祉友の会事務局長 只楚 斉

9月9日(日) 古川民主病院駐車場を会場に開催し1000人を超える参加者が集いました。

オープニングは古川第二小学校6年生48人の「二小ソーラン」子どもたちの一生懸命な踊りは感動的でした。

記念講演は古川民主病院山田裕副院長に「原発と放射能」と題して講演いただきました。先生の生まれ育った双葉郡葛尾村が放射能汚染で立ち入ることができなくなったこと、放射能物質に解毒薬はなく接しないことに越したことはないこと、そのためには、実態を知ること（測定）、地域で協力しながら汚染に対応すること、放射能についての知識を得ること、女川原発の再稼働の危険性を知らせ、声を上げることが大事であると話されました。

また、被災地をまわり、歌のボランティア活動が続けている民謡演歌歌手綾華（あやか）さんのすばらしい歌声も聞く事ができました

た。

午後は、恒例の会員さんによる「お楽しみ演芸発表」で会場は大いに盛り上がりました。今年のまつりは、夢と希望、元気をもらったすばらしい集いとなりました。



高倉ひこばえ太鼓のみなさん

※これからの健康まつり開催日程は6ページに掲載しております。



長女の美里さんが描いてくれた藪田さん



「秋になると・・・」

長町病院総務 藪田 隆司

思い出す風景、松茸探し

兵庫県の南東部にあたる丹波地方に近い片田舎三田市が私の故郷である。収穫を終えた秋になるとふと今でも思い出す風景がある。

秋祭りが近づくと私達子供はまず、神社の掃除に借り出される。なぜ子供に掃除をさせられるのか何の疑問もなく、清掃に勤めていた。

私達の楽しみは清掃よりその後が楽しみであった。神社の裏山が松茸山となっており、上級生の「清掃の終了！」の合図で、全員「ワーッ！」と歓声をあげ松茸探しに明け暮れた。一度に数多くは採れないのであるが、一人2～3本はゲットできていた。

松茸は1本見つかり、赤松の木を中心に円状に胞子が散らばっており、松茸も円状に生えているのである。それ故円状に枯れ葉を取り除いていくと、必ず見つかるのである。

あとはシメジ茸とか何種類かの茸(きのこ)をゲットし、お互い自慢し合っていた。ただし、山の途中からは観光用の松茸狩山となっており、その境界には縄が引かれており、大人たちより、その中に入るのは硬く禁じられていた。



わくわくした「だんじり」

いよいよ秋祭りになると大阪の岸和田には遠くおよばないが、神社の回りには出店が出て、「だんじり」の山車が町内を練り歩くのである。だんじりの中に乗れるのは、小学校5年の男児のみと決まっており、それはそれは祭りのヒーローであり学校の入学時から「後何年たてば、あそこに乗れる。」とわくわくしていたものである。

いよいよ小学校5年になると毎日遅くまで太鼓を叩く練習に明け暮れていた。叩き方は単純であるが、大人たちより、厳しく指導されていた。しかし、あのヒーロー席に乗れる期待で練習も全く苦痛でなかった。

祭り当日は、羽織・袴を着せられ、いよいよ「だんじり」の聖なる中に乗せられた。大人達が「だんじり」を引き、私達はだんじりの中で太鼓をたたきながら町内を練り歩いた。

当時はまだ、甘いお菓子が手に入りにくい時代であった。しかし豊年祝いのため、商店街からは食べきれないほどのジュース、お菓子が次々投げ入れられ、私達は満面の笑みを浮かべながら、食べては、叩き、叩いては、食べ、その興奮に酔いしれていた。沿道からは町内上げて豊年を祝い、「だんじり」が通ると熱烈の拍手が起こっていた。

今でも刈り終えた稲穂を見ると、ふとあの少年時代に「だんじり」に乗った自分を思い出す。

● これからの健康まつり開催日程 ●

9月30日	長町病院友の会	10月21日	くりはら健康福祉友の会
10月14日	坂総合病院友の会		県南医療生協
	泉病院友の会		若林クリニック友の会
	大崎健康福祉友の会加美支部	11月11日	大崎健康福祉友の会遠田支部
			仙台錦町診療所友の会